

vol.51

The News Letter

2025 SUMMER



JAPAN ACADEMY OF ESTHETIC DENTISTRY

発行人 / 小峰 太

編集 / 一般社団法人日本歯科審美学会
広報委員会

制作 / 三宝印刷株式会社

一般社団法人日本歯科審美学会

www.jdshinbi.net/



一般社団法人 日本歯科審美学会

General Incorporated Association Japan Academy of Esthetic Dentistry

一般社団法人日本歯科審美学会 理事長 小峰 太



このたび2025年6月より、日本歯科審美学会の理事長を拝命いたしました。重責に身の引き締まる思いであり、歴代の諸先生方が築いてこられた本会の伝統と理念を継承しつつ、さらに発展させるべく、誠心誠意努めてまいり所存です。会員の皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願

い申し上げます。

さて、歯科審美の分野は、ここ数年で目覚ましい技術革新と臨床応用の広がりを見せております。デジタル技術の進展により、検査、診断、設計、治療計画の立案までがより正確かつ効率的に行えるようになり、審美歯科治療の質も大きく向上しています。また、材料科学の発達により、審美性のみならず機能性や生体親和性にも優れた新素材が次々と登場しており、これらを臨床にどう適切に取り入れるかが今後の課題でもあります。

一方で、歯科審美は患者の満足度と直結する領域であり、その期待はますます多様化・高度化しています。だからこそ、我々専門家には、高度な技術力のみならず、科学的根拠に基づいた治療選択と、倫理的・人間的配慮を備えた対応が求められます。学会としても、これらの要請に応えるべく、教育・啓発活動のさらなる充実を図ってまいりたいと考えております。

会員の皆様が学び、交流し、情報を発信できる多様な場を整え、次世代を担う人材の育成にも力を入れてまいります。今後とも、本学会の活動にご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

徳島大学大学院医歯薬学研究部再生歯科治療学分野 教授 保坂啓一



このたび、徳島市あわぎんホール 徳島県郷土文化会館にて第35回日本歯科審美学会学術大会を開催させていただきました。全国から多くの先生方、関係者の皆様にお越しいただき、2日間にわたって熱気あふれる学術・交流の場を創出できましたこと、心より御礼申し上げます。

本大会のテーマには、「守破離」という日本の伝統的な理念を掲げま

した。これは、歯科審美という分野が単に新しさを追うだけでなく、基本を大切にしながらも、その枠を破り、最終的に個々の独創的な医療に昇華させていくべきであるという思いを込めたものです。

【学術プログラムの構成】

本大会では、保存修復、ホワイトニング、歯科技工、矯正治療、補綴治療といった各領域での「守破離」を軸としたアドバンスセミナーを中心に、多角的な視点から歯科審美を再構築する取り組みがなされました。

また、理事長講演、日本歯科医学会からの招待講演、国際シスターアカデミーとの連携講演、アライナー矯正に関する企画講演など、今日的な課題と未来を見据えた構成となりました。

共催セミナーでは、デジタル歯科との融合による矯正および補綴の最前線が紹介され、臨床現場での技術革新と予知性向上



開会の挨拶(大会長保坂啓一)

への取り組みが報告されました。

さらに、市民公開講座を通して地域住民にも歯科審美の大切さを伝えることができたことは、学会としての社会的使命の一つを果たす機会となりました。

【ランチョンセミナーと企業との協働】

6つの会場で行われたランチョンセミナーでは、企業と連携しながら、材料、治療戦略、デジタル技術などの最新情報が共有され、臨床実践への応用が議論されました。産学連携の可能性を感じる内容となったのも、本大会の特徴の一つでした。



アドバンスセミナー1「保存治療の守破離」討論の様子。座長の宮崎真至教授(右)、右から田代浩史先生、菅原佳広先生、畑山貴志先生



海外講演 (KAED sister academy session) 演者 Prof. Dongwoon Lee (中)、国際渉外委員会田上直美委員長(左)、若林一道副委員長(右)

【懇親会と阿波踊り】

大会初日の夜に開催された懇親会では、徳島の伝統文化「阿波踊り」が披露され、多くの参加者が実際に踊りの輪に加わり、大いに盛り上がりました。学術的な交流に加え、文化を通じた心の交流が生まれた瞬間でもあり、国際的な参加者からも大変好評をいただきました。

【結びに】

大会長として、全国の皆様を徳島にお迎えできたことを心から光栄に思っております。多くのご協力・ご支援を賜り、誠にありがとうございました。本大会が皆様の明日からの診療や研究の糧となることを願ってやみません。



ポスター発表演題も沢山の発表が行われ、大いに盛り上がった。



懇親会での阿波踊りのパフォーマンス (JRホテルクレメント徳島にて)

第36回日本歯科審美学会学術大会のご案内

鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座 大会長 小川 匠



第36回日本歯科審美学会学術大会を、2025年12月13日(土)および14日(日)の2日間にわたり、神奈川県横浜市のパシフィコ横浜ノースにて開催いたします。本学会の学術大会大会長を務めさせていただきます鶴見大学歯学部クラウンブリッジ補綴学講座の小川匠です。歴史と革新が融合するこの横浜の地にて、歯科

審美に関わる皆さまをお迎えできますことを大変光栄に思っております。

本大会のテーマは「歯科審美の現在地－色彩美・形態美・機能美の調和と融合－」です。歯科審美において重視される「色彩美」「形態美」「機能美」の3要素は、それぞれが単独で語られるのではなく、互いに調和・融合することで、初めて本質的な“美しさ”を形成すると考えられます。本テーマには、各分野における臨床技術と理論のさらなる融合を図り、審美歯科の未来を共に創出する場にしたいという願いが込められております。

学術プログラムでは、補綴、保存、矯正、ホワイトニング、デジタル歯科、インプラント、レーザーなど、多岐にわたる分野のアドバンスドセミナーを予定しています。各セミナーには、各領域の第一線でご活躍中の先生方を講師にお迎えし、テーマに沿って最新の知見と臨床技術をご紹介します。

たとえば、ホワイトニングをテーマにしたアドバンスドセミナーでは、日常臨床に直結する技術のアップデートを、また、デジタルをテーマにしたセミナーでは、デジタル技術の活用がもたらす審美治療の可能性を提示していただきます。さらに、矯正歯科分野における「形態美と機能美の調和」に焦点を当てたセミナーや、レーザー治療、インプラント審美、機能美の再考をテーマとしたセッションも充実しており、各講演後にはディスカッションの時間も設けられています。

さらに本大会では、スポンサープログラムとして、協賛企業によるプレゼンテーション企画も実施いたします。歯科材料や機器、審美関連製品の開発に携わる企業の皆さまから、最新の製品情報や臨床への応用などをご紹介します。臨床の現場

と産業界をつなぐこのプログラムは、歯科審美医療の今を多角的に知る貴重な機会となります。ぜひ各セッションにご参加いただき、日々の診療に役立つ情報をお持ち帰りいただければ幸いです。

このほか、理事長講演、海外招待講演、学術講演委員会企画講演、市民公開講座など、学会の枠を超えた社会貢献型のセッションも開催いたします。一般発表はポスター形式にて実施いたします。研究発表、症例報告に加え、認定医・認定士を目指す会員による発表も広く募集いたします。発表内容は、代議員による記名式投票により「デンツプライシロナ賞」の選考対象となります。若手会員の皆さまにとっても発表の機会として大変有意義な場です。ぜひ積極的なご参加をお願いいたします。

本学術大会の開催地である横浜市は、日本を代表する港町であり、歴史と近代文化が融合する魅力あふれる都市です。会場である「パシフィコ横浜ノース」は、みなとみらいエリアの中心に位置し、横浜赤レンガ倉庫やランドマークタワー、中華街、山下公園など、多彩な観光名所にも至近です。都市型リゾートとしての機能を備えたこのエリアでは、海風を感じながらの散策や、洗練されたレストランでの食事もお楽しみいただけます。また、首都圏からのアクセスも良好で、新幹線や羽田空港からの移動もスムーズに行えます。学会参加とともに、横浜という都市の魅力をご堪能ください。

また、12月13日(土)には、参加者の皆さまとの交流を深める会員懇親会を予定しております。会場は展示ホール2階の「DANZERO」で、横浜の夜景とともに美食を楽しみながら、会員相互の親睦を深めるまたとない機会となることでしょうか。

今後の詳細なプログラムや参加登録情報は、大会専用ホームページ (<https://jaed.site/36/>) にて随時更新してまいりますので、ぜひご確認ください。多数の会員の皆さまのご参加を心よりお待ちしております。2025年冬、横浜でお会いできることを楽しみにしております。

第18回AAAD学術大会参加報告

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科 田上直美

日本歯科審美学会が加盟しているAsian Academy of Aesthetic Dentistry (AAAD) の第18回学術大会が2024年11月29日～12月2日に台北(台湾)のHoward Civil Service International Houseにて開催されました。AAAD大会は基本的に2年に一度開催されており、2023年に第17回大会がコロombo(スリランカ)にて開催されたのは記憶に新しいところですが、台湾審美歯科学会創立30周年という節目を記念し、特別に2年連続で開催されることとなりました。

11月29日は台湾審美歯科学会第30回学術大会が開催され、台湾語による講演が行われました。翌30日が第18回AAAD大会(図1)で、田上の他、若林一道国際渉外委員会副委員長、中村隆志国代表代理、日本歯科審美学会選出の演者である高橋礼奈先生も参加されました。地の利の良さからか、本学会員以外の日本の先生も多数参加されており、日本と台湾の結びつきの強さを実感しました。この日は全て英語による講演で、高橋先生は「A direct injection technique with flowable composites」というタイトルの講演を行われ、流暢な英語と美しいスライドで会場を魅了されました(図2)。

夕方に開催された理事会には、日本歯科審美学会から若林理事(会長副幹事)と田上(財務)が参加し、次年度の体制やイベントに関する協議を行いました。この日の夜には台湾審美歯科学会創立30周年を記念するパーティーが開催され、各国からも大勢が参加し、AAADの新しいHPのカウントダウンやバンド演奏等で大変盛り上がりしました。



図1 30日のAAAD開会式にて

12月1～2日はJoseph Kan教授による講演と、各講師によるハンズオンセミナーが行われました。大会は4日間という長丁場でしたが、会場は終始賑やかで活気にあふれ、台湾ならではの温かいホスピタリティに包まれた、大変充実した学術大会でした。

次のAAAD学術大会は、場所は未定ですが2027年に開催されます。AAADの大会は例年アットホームで和やかな雰囲気の中、有意義な時間を過ごせます。ご興味のある方は、ぜひご参加をご検討ください。



図2 左より座長のNurul Huda Hasen先生と演者の高橋礼奈先生

IFED理事会・総会(ケルン)に参加して

渉外統括委員会委員長(大手前短期大学) 中村隆志

IFED(International Federation of Esthetic Dentistry、国際歯科審美学会)は日本歯科審美学会が組織として加入している国際的な審美歯科連盟です。IFEDは、アメリカ、ヨーロッパ、日本の3つの歯科審美学会により1994年に創設されました。通常の学会とは異なり、個人会員は存在せず、各国の審美学会に代表される30の組織(アカデミー)会員により構成されています。IFEDは通常1年おきに学術大会を開催します。最近では12回大会が2022年にアブダビ(UAE)で、13回大会が2024年にイスタンブール(トルコ)でそれぞれ開催されました。IFEDの理事会や総会は、学術大会開催年はその会期内に、学術大会がない年は、理事や各アカデミーの代表が集まりやすい場所で開催されます。今回は、IDS(International Dental Show、世界最大のデンタルショー・写真1)に合わせて2025年3月28日にケルンのマリオットホテルで開催されました。

IFED理事会は3月28日の午前中、総会は同日の午後開催されました。理事会には、Prof.S.Pamuk会長(トルコ)、Prof.R.Sader総務(ドイツ)、Dr.W.Chang次期会長(韓国)、中村(日本)ら8名の理事が出席しました(写真2)。理事会は、総務のProf.Saderが中心となって進められました。ここでは、会計報告、webサイトの現状、次回の学術大会(2026年ソウル)、次々回の学術大会(2028年、場所未定)、International Challenge(各アカデミー代表による症例報告による決戦、前回イスタンブール大会では日本チームが準決勝進出)、IFEDのトリートメントガイド(クインテッセンス出版よりインプラント解説書発刊、英語)などが議題になりました。午後は同じ会場で、30の会員アカデミーのうちトルコ、チェコ、スペイン、ドイツ、イギリス、韓国、台湾など19アカデミーの代表が参加してIFED総会が行われました。日本歯科審美学会からは、保坂啓一教授(徳島大学)が代表として出席しました。議題は理事会とほぼ同じ内容でした。

IFED会議の翌日午前中にケルンメッセで開催されたIDSに行きました。IDSは主催者発表で156か国から135,000人が参加したとのこと。短時間の滞在であり、広い会場をすべて見ることはできませんでしたが、デジタル技術の応用が多かった気がします。とくに3DプリンターやAIを搭載したソフトウェアなどが印象に残りました。

IFEDの理事会、総会を通じて、日本歯科審美学会の会員に記憶いただきたいのは、次回のIFEDソウル大会(写真3)についてです。ソウル大会は2026年の11月13-15日にCOEX国際会議

場で開催されます。11月13日(金)はスポンサーによるワークショップと理事会、総会、11月14日(土)はIFEDデイとして海外演者を含む英語での講演とGalaディナー、11月15日(日)はKAEDデーとして韓国演者による英語あるいは韓国語講演(同時通訳あり)が予定されています。COEXはソウルの中心カンナム地区にあり、日本からも便利なロケーションです、日本の会員の方々にもぜひ参加いただきたいと思います。



写真1



写真2



写真3

第62回・63回ホワイトニングコーディネーター講習会・認定試験の開催報告

ホワイトニングコーディネーター委員会 坂本奈津季

第62回・第63回のホワイトニングコーディネーター講習会・認定試験は2025年1月13日(月)に福岡国際会議場(福岡)、2025年3月9日(日)は昭和医科大学上条記念館(東京)にてそれぞれ開催されました。第62回は176名、第63回は191名が受講され、厳正なる合否判定会議の結果、見事全員合格となりました。当日は近隣の地域からも多くの受講生が集まり、ホワイトニングコーディネーター資格取得のため、「歯のホワイトニング基礎編」、「歯のホワイトニング実践編」、「ホワイトニングにおけるカウンセリングとケア」そして「こんなときどう答える? -患者さんの質問に対して-」各セッションの講義に対して聞き漏らすことのないよう、テキストへ書き込みを行ないながら真剣に受講されていました。講習会の後には毎回、質疑応答と試験終了後には個別の質問への対応を恒例としており、日頃の臨床に悩む歯科衛生士に少しでも自信を持って医療ホワイトニングを実践してもらおうと、委員一同でサポートしております。今後も講習会での安心で安全な医療ホワイトニングについての正しい知識と技術の啓蒙を行なっていくことがホワイトニングコーディネーター委員会の役割と認識しております。また、ホワイトニングコーディネーターの登録有効期間は3年です。現在、日々新しいホワイトニングに関する新製品が発売され、「医療ホワイトニング」が急速に認知されてきているところであります。ぜひホワイトニングコーディネーターを取得されている歯科衛生士の皆様には最新の知識へとアップデートするため、学術大会や講習会へ積極的



第63回ホワイトニングコーディネーター講習会・認定試験
(2025年3月9日：東京会場)

に参加していただき、ホワイトニングコーディネーターの資格更新、更には日本歯科審美学会認定士を目指していただきたいと思います。

これまでホワイトニングコーディネーター委員会では金子潤委員長の下、第56回から第63回までの講習会・認定試験を開催して参りました。新型コロナウイルスが収束し、対面での講習会開催が再開されて以降、「医療ホワイトニング」の普及、新しい製品の発売や「ホワイトニングコーディネーター」名称の商標登録などホワイトニングを取り巻く環境の変化が様々起きた2年間であったように思います。委員会内でも変化に対応すべく様々意見交換を行い講習会において受講生への説明に配慮しながら進めて参りました。また、認定試験問題検討チームにより試験問題の大幅リニューアルを行い、現在は第64回以降の講習会に向けて、最新の情報を提供できるようテキスト改訂を鋭意進めているところです。現ホワイトニングコーディネーター委員会は2年間の任期を終え、第64回講習会・認定試験より新しいメンバーで始動いたします。今後も医療ホワイトニングを担う多くのホワイトニングコーディネーターを輩出していけるよう委員一同最後まで務めさせていただきます。

第64回以降のホワイトニングコーディネーター講習会・認定試験の情報はホームページにてご確認いただけます。有難いことにいつも多くの申し込みをいただいております。早々に満席となります。会員の先生方にはぜひ、資格取得を希望されている歯科衛生士への情報提供をお願いいたします。今後とも、先生方のご指導・ご鞭撻のほど、よろしくお願いたします。



越智資格承認統括委員長(前列左から2人目)とホワイトニングコーディネーター委員会メンバー

受賞者のご紹介

学会功労賞を受賞して

岡山大学名誉教授 医療法人優心会大塚歯科医院顧問指導歯科医師 吉山昌宏

昨年12月7日に徳島市のあわ銀ホールで開催された日本歯科審美学会で学会功労賞を受賞いたしましたが大変名誉なことであり、本学会並びに関係各位に深く感謝しております。

2000年に岡山大学歯学部教授に就任してすぐに審美歯科外来を岡山大学病院に開設し、本学会認定医を取得し、審美コンポジットレジン修復やホワイトニングの臨床や研究を医局員一丸となって展開してきました。2014年には、現在鹿児島大学教授の西谷準備委員長をはじめとする医局員の総力で高松市において本学会学術大会を無事開催し成功裏に終了できたことは私にとって素晴らしい思い出でもあります。さらに本学会の目玉活動の一つである歯科衛生士学校への出張講義事業に賛同して、毎年岡山市や高松市の歯科衛生士学校に出張して歯科審美学会の講義を行ってきました。本学会の理事も長年就任させていただき、本学会の発展のため私なりに理事会にて発言させていただきましたが、現在本学会の顧問である奈良陽一郎先生が会長時代にいろいろとやさしくご指導いただいたことは、私にとって良き思い出であるとともに感謝の念に堪えません。2023年に岡山大学名誉教授になるとともに、丸亀市に本院を有し高松市や岡山県、さらには練馬区に分院を有する医療法人優心会大塚歯科医院の顧問指導歯科医師に就任してからは、岡山大学、徳島大学、さらには北海道医療大学で保存修復学の特別講義をするとともに、週4日本院で外来診療しています。保険診療では、CAD/CAMレジン冠や直接レジン充填を毎日数症例していますが、やはり私費でジルコニア冠補綴やトクヤマデンタル社のエステライトアステリア充填をしたときには審美歯科をしているという終身認定医としての満足感が得られます。現在67歳ですがあと数年は現役理事として本学会の発展に貢献したいと考えています。最後に、会員の諸先生方の益々の発展と本学会のさらなる飛躍を祈念して本稿を終わりたいと思います。



優秀発表賞受賞者のご紹介

優秀臨床論文賞を受賞して

鹿児島大学大学院歯医学総合研究科歯科保存学分野 教授 西谷佳浩

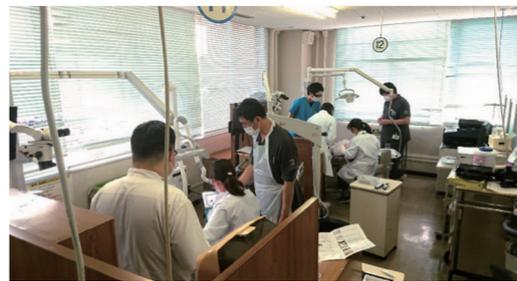


この度、歯科審美36巻1号に掲載された「変色歯の色調改善にオフィスブリーチング法を行う際の対応とその要点」に対し、2023年度日本歯科審美学会優秀臨床論文賞に選出いただきましたこと、誠に光栄に思います。

本論文は、天然歯に対してオフィスブリーチング法を用いて変色歯の色調改善を行った症例について、漂白後長期にわたり経過を観察し、良好な結果を得たので報告したのになります。歯を白くしたいという患者の主訴に対して、詳細に変色部位および色調、患者の希望する内容、緊急性、生活背景等のコンサルテーションを行いました。その結果ホームブリーチングでは指示通りの時間・方法での薬剤使用が困難であると判断し、オフィスブリーチング法を提案しました。さらに本症例の変色の原因として、加齢による内因性の変色、飲食物や嗜好品中の外来色素の歯表面への沈着について検討し、事前に十分な説明を行うことで、患者の理解が得られました。変色歯に対してオフィスブリーチング法により色調を改善した結果、患者の口腔内への関心を高めるとともに、長期にわたりメンテナンスを行うことで、改善された口腔内環境の維持が図られました。

当分野は大学病院の保存科として診療を行うだけでなく、研修歯科医や臨床実習生、歯科保存学分野の認定医・専門医の育成を担っております。また専門外来としてホワイトニング外来を主担当しています。この受賞は医局員一同にとって大変励みになりました。

最後に、これからの日本歯科審美学会のますますのご発展をお祈り申し上げ、結びの言葉とさせていただきます。



当教室で行っている研修歯科医対象のホワイトニングセミナー

優秀発表賞受賞者のご紹介

優秀奨励論文賞を受賞して

昭和医科大学歯学部歯科保存学講座保存修復学部門 新妻由衣子



この度、日本歯科審美学会優秀奨励論文賞を受賞し、大変光栄に思っております。

本論文は「プレフィルドホームホワイトニング材に関する臨床研究—20症例18か月フォローアップ—」というタイトルで、2020年より当講座で実施した臨床試験の結果を報告したものです。この研究では、

2021年に認可・発売されたホームホワイトニング材の有効性と安全性を検証しました。本製品は、日本初の6%過酸化水素とプレフィルドのユニバーサルトレーを用いたホームホワイトニング材です。現在では、昭和医科大学歯科病院保存修復科ホワイトニング外来にて、多くの患者さんにご利用いただいております。臨床試験の継続と併せて、新たな活用法の報告も行っています。このホワイトニング材の認可以降、高濃度の新製品が次々に発売され、臨床における選択肢が広がっています。2022年に日本歯科医師会が実施した意識調査でも、幅広い年齢層が歯の色に悩んでいるという結果が示されており、当外来を受診される患者数も年々増加しています。臨床において、ホワイトニングの需要が高まっていることを日々実感しています。

2023年より本学会のホワイトニングコーディネーター委員を拝命し、「医療ホワイトニング」に関する正しい知識と技術の普及に努めています。委員会活動を通して、受講生から臨床に関する質問や悩みを直接伺う機会も多く、「これからホワイトニングを始めたい」という前向きな声を聞くことができ、とても励みになっています。また、委員の先生方から多くのことを学ばせていただき、充実した活動を行っています。

今後もホワイトニングに関する臨床試験や基礎研究を継続しながら、歯科医師や歯科衛生士の皆様に医療ホワイトニングの魅力を広く伝えていけるよう、さらに学びと活動を続けてまいります。

最後に、本論文作成にあたりご指導いただきました東光昭夫先生、また常に多大なご助言をいただいている小林幹宏先生、そして日々支えてくださる講座の先生方に心より感謝申し上げます。

優秀発表賞受賞者のご紹介

優秀研究論文賞受賞に寄せて—コンポジットレジン修復におけるバイオアクティブ材料の応用と審美歯科への展望—

日本大学歯学部保存学教室修復学講座 黒川弘康



このたびは、歯科審美学会において優秀研究論文賞という栄誉ある賞を賜り、心より御礼申し上げます。本研究を高くご評価くださった選考委員の先生方をはじめ、日頃よりご指導・ご支援を賜っております諸先生方に、深く感謝申し上げます。

本研究では、臨床においてしばしば課題となるコンポジットレジン修復物辺縁での着色を防止することを目的として、S-PRGフィラー含有研磨ペーストがコンポジットレジン修復物周囲のエナメル質に及ぼす影響について検討を行いました。その結果、当該ペーストをコンポジットレジンの研磨に応用することで、窩洞周囲エナメル質の脱灰を抑制し、再石灰化を促進する効果が確認され、修復物辺縁における二次齲蝕の発生を抑えるとともに、長期的な審美性の維持にも寄与する可能性が示唆されました。このように、バイオアクティブな機能を有する材料を積極的に歯科臨床へ導入することは、修復物の機能的耐久性と審美的安定性の両立を図るうえで、有効かつ実践的な戦略と考えられます。

審美歯科治療においては、見た目の美しさにとどまらず、生物学的な安定性、機能の持続性、さらには組織との調和といった多面的要素が重視されます。こうした中で、近年注目を集めているクリニカルカリオロジーの概念は、従来の歯科治療の枠組みに新たな価値をもたらすものとして、審美修復領域においてもその重要性を増しています。齲蝕のリスク評価や予防的介入、歯質保存に重きを置いたこのアプローチは、単なる修復にとどまらず、予防歯科的視点を取り入れた、より包括的な審美歯科治療の実現に貢献するものといえます。

今後は、これらの科学的根拠に基づいた治療概念を一層深化させ、臨床応用との連携を図ることで、歯科審美学の持続的発展に資する研究を推進してまいります。

今回の受賞を大きな励みとし、今後も基礎的知見と臨床現場との橋渡しとなる研究に精力的に取り組む所存です。改めまして、このような貴重な機会を賜りましたことに、心より御礼申し上げます。

優秀発表賞受賞者のご紹介

優秀研究論文賞を受賞して

福岡医療短期大学歯科衛生学科 黒木まどか



この度は優秀研究論文賞を賜り、大変光栄に存じます。本論文をご査読くださり貴重なご意見を賜りました先生方、編集委員の先生方、ならびに論文賞の選考委員の先生方に心より御礼申し上げます。また、共筆者として本研究においてモデル顔の作成や調査にご尽力いただいた福岡女子大学の江頭莉緒さん、日頃よりご指導を賜っております福岡女子大

学の庄山茂子先生、福岡看護大学の青木久恵先生に深く感謝申し上げます。

本研究では、男性の肌の色に調和し、かつ汎用性の高い歯の色の選択基準を示すことを目的に、異なる歯と肌の色を組み合わせた若年男性のモデル顔にどのような印象を受けるのか、同世代の一般成人男女に評価を求めました。その結果、肌の色に調和する歯の色は、色相とトーンが肌の色と同一または類似し、肌の色よりも明度の高い色でした。また、明度の低い歯の色は、見た目年齢を高く感じさせる傾向が見られました。さらに、肌の色に調和する歯の色は、内面的・外面的魅力を向上させるだけでなく、職務遂行能力の評価を高めることも確認されました。これらの知見は、歯科医療従事者の支援にとどまらず、男性が社会的・知的能力の印象を高める歯の色を選ぶ際の指針となり、ビジネスをはじめとする対人コミュニケーションの場において、より良い人間関係の構築や円滑な交流に役立つことが期待されます。

これまで、若年男女および中年女性をモデルとした研究により、肌の色に調和する歯の白さの選択基準を提案してまいりました。これらの成果は、歯科医療従事者が患者の満足感を高める診療を提供する一助となるとともに、患者自身が顔の魅力を高める歯の色を選択する際の支援となり、QOLの向上に寄与すると考えています。さらに本研究は、歯科医療従事者と患者とのコミュニケーションを深め、インフォームド・コンセントの充実にも資するものと捉えています。今後も多様な世代を対象とした研究を進め、すべての人々の審美的かつ健康的な口元づくりに貢献してまいります。

最後になりますが、本研究にご協力くださいました皆様に心より感謝申し上げます。このたびの受賞を励みに、今後も研究活動に一層精進してまいります。

優秀発表賞受賞者のご紹介

デンツプライ賞を受賞して

昭和医科大学歯学部歯科保存学講座保存修復科 菅井琳太郎



この度、2024年12月に開催された第35回日本歯科審美学会学術大会では「デンツプライシロナ賞」を賜りまして誠に光栄であり大変嬉しく存じます。受賞発表の演題名は「ユニバーサルシェードコンポジットレジンで装着されたポーセレンラミネートベニア修復の色調評価」です。ポーセレンラミネートベニア (PLV) 修復は健全歯質を可能な限り保存し

ながら、審美性を改善することのできる修復技法です。しかし、PLV修復は非常に緻密な色調再現性が求められ、支台歯やセメントの色調を慎重に考慮する必要があります。近年、単色で幅広い色調に適応可能であるユニバーサルシェードのコンポジットレジンが広く普及しています。これらユニバーサルタイプのコンポジットレジンを用いた場合、多くの色調の修復物に用いることができるのではないかと考え、本研究に着想しました。本発表は、ユニバーサルシェードフロアブルレジン (URC) を用いてPLVを装着した場合の色調変化をCIE2000による ΔE_{00} と透明度を用いた考察した研究です。本研究では、PLVの装着にUCRを使用した場合、従来のレジンセメントと同様の色調適合性を有すること、また、支台歯の色調が最終的な色調に最も影響を及ぼすことが示唆されました。

この度いただきました「デンツプライシロナ賞」に恥じぬよう、新たな研究分野に貢献できるよう努めて参ります。また、今後も歯科医療と本学会の発展のために尽力したいと存じます。最後に、研究の遂行にご指導いただいた小林幹宏教授をはじめとする昭和医科大学保存修復科の皆様深く感謝を申し上げます。



スタートアップ発表賞を受賞して

徳島大学再生歯科治療学分野 内海雄太



この度、日本歯科審美学会第34回学術大会で発表いたしました「内部マメロン構造と外部フルカントウアのバイレイヤー・マイクロクリアインデックスを用いたコンポジットレジンインジェクションテクニックにより前歯部レイヤリングを再現した1症例」に対して、スタートアップ発表賞という大変名誉な賞を賜り誠に

に光栄に思います。本発表を高く評価してくださいました先生方、並びに学会関係者の皆様にこの場をお借りして深く御礼申し上げます。

当研究室では、歯質の切削量を最小限にした上で、コンポジットレジン (CR) を用いた歯の修復を行っております。今回の症例において、IOS (口腔内スキャナー) を用いて、歯列の3次元データを撮影し、CADソフト上で欠損部に対して接着Brの補綴設計を行いました。また、審美的な修復を可能とするために象牙質とエナメル質の2層構造を設計したうえで、そのデータに相当するクリアシリコンインデックスを製作し、CR修復を行いました。前歯部の審美的な歯科修復において、歯の解剖学的な形態を修復することは重要であり、設計データを術前に歯科医師、技工士、患者とで情報を共有することで、満足のいく結果をもたらすことが可能となりました。

本学会に参加したことで、多くの先生たちの素晴らしい知識、臨床技法を対面で享受することができ感銘を受けました。今後もより良好な歯科審美学を追求していくとともに、日常の臨床に有益となる研究をできるよう精進したいと思います。

最後に、研究に参加していただいた被験者の皆様、研究を指導して頂いた保坂啓一教授および、渡邊佳一郎助教 (当大学口腔顎顔面矯正学) をはじめとする徳島大学の先生方、技工・設計のご助言・ご協力等を賜った歯科技工士の鴨居浩平先生、山本諒平先生 (当院医療技術部歯科医療技術部門技工室) の皆様には感謝申し上げます。

学術講演統括委員会

このたび、学術講演統括委員会を務めさせていただきます、日本歯科大学の新谷明一です。まだまだ若輩者のため、至らぬところばかりですが、小峰太理事長の元、粉骨碎身の覚悟で担当させていただきます。

審美歯科は、単なる美しさの追求にとどまらず、咀嚼や発音、口元の印象、さらには患者の自己肯定感や社会的活動にも影響を与える、極めて重要な学問領域です。本分野において、日本歯科審美学会が果たすべき役割は、今後ますます大きくなるものと感じております。本委員会では、最新の臨床術式や研究成果の発信を通じて、学会員の知識・技能の向上を支援するとともに、エビデンスに基づく診断の標準化や指針作成にも積極的に取り組んでまいります。さらに、年次学術大会や学術講演で行われるセミナーの質的向上など、多様なニーズに応える施策を展開していきたいと考えております。

また、若手研究者や臨床家が活躍できる場の創出にも力を入れ、将来を担う人材の育成を図ります。あわせて、他分野とのセミナーでの連携や国際的な情報提供を通じて、審美歯科のさらなる発展と社会的認知の向上に寄与することを目指します。

委員の皆様と力を合わせ、誠実かつ意欲的に活動を進めてまいりますので、引き続きご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
(委員長 新谷明一)

編集委員会

会員の皆様におかれましては、平素から「歯科審美」の発行にご協力頂いていること、とくに論文を投稿していただいていることに感謝申し上げます。

これまで、編集委員会の基本方針として示させていただいてきていますように、まずは原著論文の投稿数を増加させることが重要と考えております。これは、本学会が日本歯科医学会の認定分科会から専門分科会に移行できるかどうかの大きなカギとなるからです。もちろん、臨床を主とした学会ですので症例報告の投稿も重要であり、内容の充実にも努めたいと考えております。

日本歯科審美学会の役割は、その目的を達成するために、学術大会の開催とともに学術雑誌を発行することによって、得られた知見をより多くの会員に理解いただき、広く世に問うことも重要です。とくに、学術雑誌である歯科審美においては、学術雑誌の有している新たな知見を広く世に問うという使命を果たすためにも、原著論文の投稿を広く受け入れたいと考えております。これまで以上の、原著論文の投稿に期待を致すところです。

学術大会においては、多くの口頭あるいはポスターによる発表

がされています。是非とも、それらを原著論文として、あるいは臨床論文としてまとめていただき、積極的に投稿していただければと考えております。

本学会では、優れた論文を表彰するという制度も整えられています。是非とも、多くの会員からの投稿をお願いするとともに、広く学術的な議論を行う場として活用いただければと考えております。(委員長 宮崎真至)

国際渉外委員会

国際渉外委員会は、世界の審美学会と協力しながら、日本歯科審美学会の更なる発展を目的に活動しています。

国際歯科審美学会 (International Federation of Esthetic Dentistry : IFED) は、2026年に韓国にて開催される予定となっています。韓国審美学会 (Korean Academy of Esthetic Dentistry : KAED) と日本歯科審美学科は姉妹協定を結んでおり、交流の深い学会の一つで、2025年は11月16日(日)に開催予定となっています。両学会は演者の相互派遣も行っており、日本歯科審美学会からは小峰太理事長が講演予定となっています。加えて、アジア歯科審美学会 (Asian Academy of Aesthetic Dentistry) でも日本歯科審美学会のメンバーが役員をしており、重要な役割を担っています。COVID-19により開催日程や場所が複雑になっていますが、現在のところ、2027年にマレーシアでの開催が候補となっています。

日本歯科審美学会が、世界の審美歯科学・審美歯科治療の発展のための主導的役割を果たすべく、国際渉外活動を展開して参りますので、皆様方のご協力をお願い申し上げます。

(委員長 若林一道)

国内渉外委員会

日本歯科審美学会では社会連携事業の1つとして歯科審美学に関する出張講義を実施しております。

2024年度は青森から鹿児島にわたる全国約50の歯科衛生士や歯科技工士の養成校からご希望があり、2025年の2月末までに出張講義を実施しました(写真・講師は大阪大学の峯篤史准教授)。過去の講義の評判が良く、同じ講師の派遣を希望される養成校が多くみられました。この出張講義が契機となり、歯科医療を目指す学生に歯科審美学が正しく理解され、本学会の会員数増加につながることを願っております。

2025年度も引き続き全国で歯科審美学に関する出張講義を実施する予定です。本年度も会員の先生方にはご協力をよろしく

お願い申し上げます。

(委員長 中村隆志)



認定医審議会・認定医制度運営委員会

この6月から認定医審議会・認定医制度運営委員会委員長を拝命いたしました、柵木寿男(ませきとしお)と申します。

2025年現在、本会認定医は全181名を数えております。本学会員6,263名中、歯科医師会員は2,309名ですが、計算上、本会認定医は歯科医師会員の約7.8パーセントを占めているということになります。これが、果たして多いのか少ないのか、皆様方のお考えはいかがでしょうか?

本会認定医は、認定医制度規則第3章によりますと「歯科審美学領域における診断と治療のための高い医療技術を修得するとともに、他診療領域の歯科医師または医師からの要請に応じて適切な指示を与えることのできる能力を有すること」とされております。この趣旨に則り、認定医未取得の2,128名の先生方におかれましては、ぜひ取得を目指していただければと思います。また、現認定医の先生方は、学術大会参加、発表あるいは本会学術誌である歯科審美への投稿等を通じて、5年毎の認定医更新をお願いいたします。それらのサポートを主たる務めとして、私共委員は活動していく所存でございますので、どうぞ宜しくお願い申し上げます。(委員長 柵木寿男)

利益相反委員会

新執行部における利益相反委員会委員長を仰せつかりました新海航一です。委員会メンバーは、副委員長の向井義晴先生、委員の柵木寿男先生、海老原 隆先生および木暮ミカ先生で、私を含めて5名が2年間の任期を務めて参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

本学会の利益相反(COI)に関する指針では、第5条にCOI委員会の役割が記載されています。そこには、「本学会が実施するすべての事業において、重大なCOI状態が生じた場合や、非適切な申告が指摘された場合、COI委員会はヒアリング等の調査を行い結果を理事長に報告する」という一文が記載されております。したがって、本委員会が活動しないことが理想的といえますが、裏を返せば、重大なCOI状態や非適切な申告が起こらないように予防策を講じていくのが本委員会の役割ともいえます。第5条には、追記として委員会の掌握事項があげられています。すなわち、「COI状態にある会員個人からの質問、要望への対応」、「COIの管理ならびに啓発活動」、そして「COIに関する調査、審議、審査およびマネージメント、改善措置の提案、勧告」の3項目です。これらのうち、2項目目が予防策に該当するため重要と考えております。

COI状態の自己申告は、会員としては学術大会や学会機関誌における発表時に、役員等としては就任時に必須であります。指針の第6条にも明記されておりますので、念頭におかれませう、よろしくお願いいたします。(委員長 新海航一)

規則検討委員会

本学会は37年余の歴史を有しますが(前身の研究会時代も含む)、一般社団法人化したのは、2015年(平成27年)4月1日でした。したがって、本年度はNext Decadeへの大事な年となります。この10年間に本会は、任意団体時より組織の運営基盤が強化され、名実ともに社会的な信用も獲得して参りました。

同時に社会に対して責任を有するため、本委員会は、任意団体時の規則・細則、内規や申合せ等を定款に整合するよう更訂し、それらを実際に運用しながら、業務執行をはじめとする学会運営が円滑に進むよう問題点を都度鋭意修正して参りました。とくに最近では、社会情勢の変化に応じて、「申合せ」などの細部にわたるところまで「改正」を行う必要性が生じており、担当委員会とともに規定文の整備を行っています。今後も各種規定文の更なる完成と円滑な運用を図るべく活動して参ります。

なお、本委員会のメンバーは、委員長：富士谷盛興、副委員長：海老原隆、委員：齋藤誠、仲西康裕、前迫真由美、牧村英

樹、岸本崇史(～2025.8、幹事兼任)、堀江卓(2025.9～、幹事兼任)(敬称略、五十音順)です。どうぞよろしくお願い申し上げます。(委員長 富士谷盛興)

表彰委員会

2024年度日本歯科審美学会・第35回学術講演会(徳島大会)において、以下の方々が表彰されました。

〈学会功労賞〉

吉山昌宏(岡山大学名誉教授・大塚歯科医院顧問)

〈優秀研究論文賞〉

黒木まどか(福岡医療短期大学歯科衛生学科)

黒川弘康(日本大学歯学部保存学教室修復学講座)

〈優秀臨床論文賞〉

西谷佳浩(鹿児島大学大学院医歯学総合研究科歯科保存学分野)

〈優秀奨励論文賞〉

新妻由衣子(昭和医科歯学部歯学部保存学講座美容歯科学部門)

〈デンツプライシロナ賞〉

菅井琳太郎(昭和医科歯学部歯学部保存学講座美容歯科学部門)

〈スタートアップ発表賞〉

内海雄太(徳島大学大学院医歯薬学研究所口腔科学研究科再生歯科治療学分野)

(敬称略)

(委員長 高田恒彦)

学会主導型研究

「口元の審美意識と全身状態の経年的関係」報告

令和元年に日本歯科医学会プロジェクト研究に日本歯科審美学会として初めて採択され(課題名: AI活用によるオンライン口腔健康管理システムの構築)、早いもので5年半が経過しました。採択決定後にコロナ感染拡大に伴う活動自粛を余儀なくされ、実際に活動を開始できたのはここ数年でした。そのような中、本学会学術大会に継続して報告し、進捗状況をお伝えして参りました。報告を始めた令和3年度には西山デンタルアカデミーからも研究費を助成していただき、後に日本歯科審美学会の学会主導型研究として取り組むこととなりました。また、多くの会員の皆様にご協力いただき、さらには励ましのお言葉を頂戴できたことが推進力となっております。昨年度は徳島で開催された第35回学術大会に「学会主導型研究進捗状況報告-口元の審美意識と全身状態の経年的関係-」というタイトルで、やっと前向きコホート調査の途中経過を解析した内容で発表することができました。こ

これまでの内容を簡単にまとめますと、明海大学、徳島大学、そして本学会での臨床研究に関する倫理審査で承認を受け、10大学ならびにその関連病院・歯科医院で200名の調査を実施し、AIによる解析を行いました。その結果、口元の審美意識が口腔内の状況に影響していることに加え、全身状態としては循環器系疾患、脂質異常に関連があることを第33・34回の学術大会で報告しました。第35回大会では経年的調査データがそろっている68名の前向きコホート調査結果を解析し、脂質異常に口元の審美意識との関連があることを報告しました。今後詳細な解析を加えまとめていく予定です。

このような活動を続けてきたところ、一般社団法人可視化情報学会から学会誌への寄稿依頼があり、これまでの内容の一部を「口元の審美意識が全身の健康状態に及ぼす影響」という論文にまとめ、先日掲載誌が発刊されたところです(可視化情報. 45:10-12, 2025)。

また、本年9月26日から開催されます第25回日本歯科医学学会学術大会でのポスター発表を申し込み、先日採択通知が届きました。本学会以外の多くの方の目に触れてもらえる機会となるよう願っており、また、ご意見を伺えれば幸いです。

いよいよまとめを行う段階に差し掛かって参りました。審美歯科治療が多岐にわたるプラスの効果をもたらすことをエビデンスとして世に広める端緒となることを目的に、皆様の変わらぬご支援とご助言をお願いしまして、進めたいと思います。

(代表者 藤澤政紀)

賛助会員一覧

相田化学工業株式会社

相田化学工業株式会社
〒183-0026 東京都府中市南町6-31-2

Tel: 042-366-1201
<http://www.aida-j.jp>

石福金属興業株式会社

石福金属興業株式会社
〒101-0047 東京都千代田区内神田3-20-7

Tel: 03-3252-8471
<https://www.ishifuku-kinzoku.co.jp/>

医歯薬出版株式会社

医歯薬出版株式会社
〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10

Tel: 03-5395-7630
<https://www.ishiyaku.co.jp>

ivoclar

Ivoclar Vivadent株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷1-28-24

Tel: 03-6801-1301
https://www.ivoclar.com/ja_jp



ULTRADENT JAPAN株式会社
〒151-0061 東京都渋谷区初台1-34-14
初台TNビル3F
Tel: 03-5365-1760
<https://www.ultradent.jp/>

QUINTESSENCE PUBLISHING 日本

クインテッセンス出版株式会社
〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-6
クイントハウスビル
Tel: 03-5842-2270
<https://www.quint-j.co.jp>

Kuraray Noritake Dental Inc.

クラレノリタケデンタル株式会社
〒100-0004 東京都千代田区大手町2-6-4
常盤橋タワー
Tel (フリーダイヤル): 0120-330922
<https://www.kuraraynoritake.jp>

サンメディカル株式会社

サンメディカル株式会社
〒524-0044 滋賀県守山市古高町571-2
Tel: 077-582-9981
<http://www.sunmedical.co.jp>



株式会社ジーシー
〒113-0033 東京都文京区本郷3-2-14
Tel (カスタマーサービスセンター・お客様窓口):
0120-416480
<https://www.gc.dental/japan/>



株式会社松風
〒605-0983 京都市東山区福福上高松町11
Tel: 075-561-1112
<http://www.shofu.co.jp/>



ソルベンタム合同会社
〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-29
Tel (コールセンター): 0120-332329
<https://www.solventum.com/ja-jp/home/>



デンツプライシロナ株式会社
〒104-0061 東京都中央区銀座8-21-1
住友不動産汐留浜離宮ビル5階
<https://www.dentsplysirona.com>



株式会社東京技研
〒158-0087 東京都世田谷区玉堤1-25-13

Tel: 03-3703-5581
<http://www.tokyogiken.com/>



Haleon ジャパン株式会社
〒107-0052 東京都港区赤坂1-8-1
赤坂インターシティAIR
Tel: 03-4511-8732
<https://www.haleonhealthpartner.com/ja-jp/oral-health/>



ホワイトエッセンス株式会社
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-12-18
渋谷南東急ビル11F
Tel: 03-6434-1330
<https://www.whiteessence.co.jp/>



株式会社茂久田商会
〒650-0047 神戸市中央区港島南町4-7-5

E-mail: info@mokuda.co.jp
<http://www.mokuda.co.jp/>



株式会社モリタ
〒564-8650 大阪府吹田市垂水町3-33-18

Tel: 06-6380-2525
<http://www.dental-plaza.com>



株式会社ヨシダ
〒110-8507 東京都台東区上野7-6-9

Tel (コンタクトセンター): 0120-178-148
<http://www.yoshida-dental.co.jp>



株式会社トクヤマデンタル
〒110-0016 東京都台東区台東1-38-9
イトーピア清洲橋通ビル7F
Tel (フリーダイヤル): 0120-54-1182
<https://www.tokuyama-dental.co.jp>



ペントロン ジャパン株式会社
〒140-0014 東京都品川区大井4-13-17-5F・6F
Tel: 03-5746-0316
<https://www.j-pentron.com/>



株式会社メディカルネット
〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷1-34-14
宝ビル3階
Tel: 03-5790-5263
<https://www.dentwave.com/>



株式会社モモセ歯科商会
〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町6-35

Tel: 06-6773-3333
<http://www.momose-dm.co.jp>

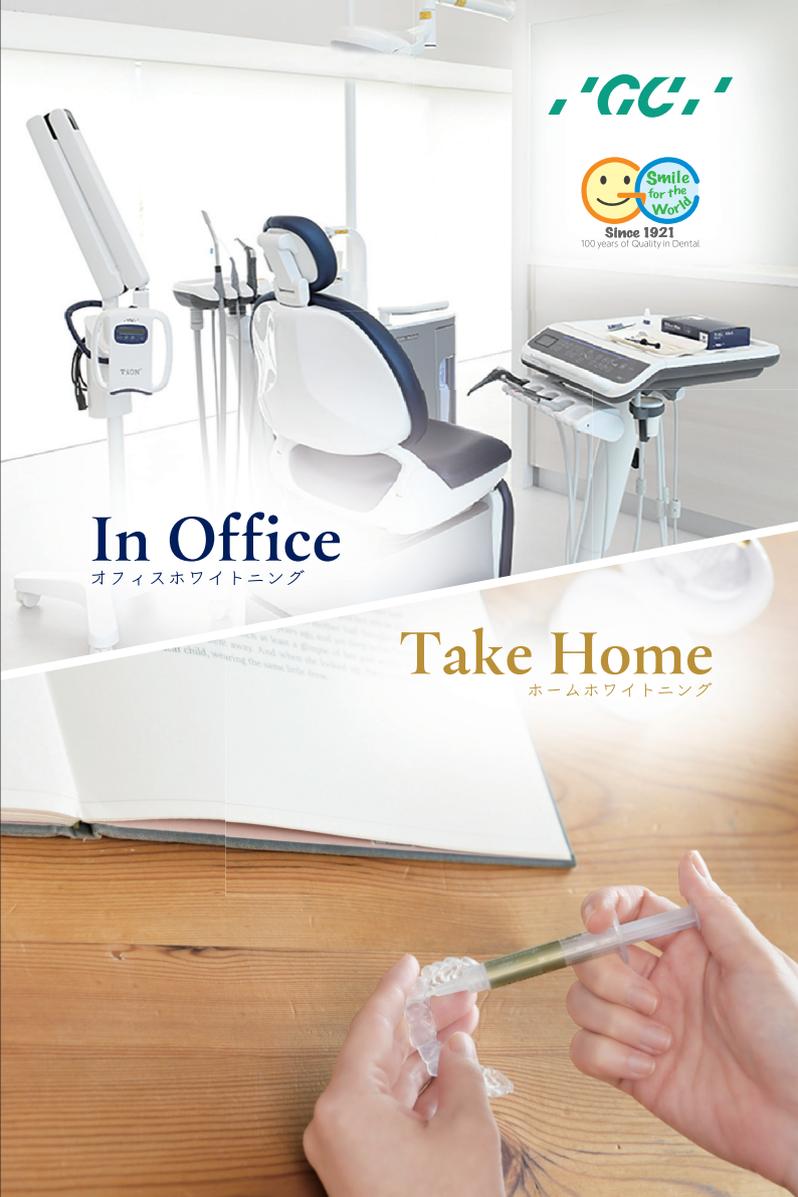


株式会社モリムラ
〒110-0005 東京都台東区上野3-17-10

Tel: 03-5808-9350
<http://www.morimura-jpn.co.jp/>



Since 1921
100 years of Quality in Dental



In Office
オフィスホワイトニング

Take Home
ホームホワイトニング

医療ホワイトニング 患者さんに合わせた提案が
TiON® できるホワイトニング

医療ホワイトニングと
製品の詳細はコチラ



歯科用漂白材 TiON オフィス 22200BZX00785000
高度管理医療機器 22200BZX00785000
医薬品含有歯科用歯面清掃補助材 TiON ホーム ウィズ 発売元 株式会社 シーシー / 製造販売元 株式会社 シーシー
高度管理医療機器 30600BZX00056000 東京都中央区本町3丁目2番14号 東京都板橋区蓮沼2丁目76番1号
※掲載の内容は2025年4月現在のものです。※会社名、製品名称等は各社の商標または登録商標です。